

テーマ「知識の活用方法を学ぶ教育」

カテゴリー:③教育方法「演習」

1. 学校概要:学校名:唐津看護専門学校 看護専門課程 所在地:佐賀県唐津市栄町2588-8

課程名:定時制2年課程 1学年定員数40名 就業年限:3年

2. 内容:当校は、5年前よりポートフォリオ、ルーブリック評価を活用して実習要項へ変更している。実習は、知識やスキルを活用・応用・総合し看護実践を学んでいく。そのため、授業で実習をイメージした知識や技術の習得ができるよう各科目においてもパフォーマンス課題を活用した学習方法を取入れている。その一部を紹介する。

科目:母性看護学方法論Ⅱ 1単位 30時間

科目目的:妊婦・新生児が健康な経過をたどるための支援技術を身に付ける

単元目標:正常な新生児の生理学的状況を踏まえ、出生後の適応過程が順調に経過していることを確認するための観察技術と新生児を優しく養護する日常生活の援助技術を学ぶ。

回	主発問	授業内容・方法
1回	新生児の健康状態を判断するために必要な知識と技術とは？	身体的特徴・生理的変化を踏まえたフィジカルアセスメントを理解する(講義・演習)
2回	新生児が安全で安心できる清潔援助とは？	新生児の身体的特徴を踏まえ、安全で安心できる清潔援助[衣服着脱、オムツ交換、沐浴]を理解する(講義・演習)
3回	新生児が安全で安心できる日常生活援助とは？	実践の振り返りを踏まえ、安全・安心につながる環境調整の必要性を理解する(講義)
4回	新生児が安全で、安心できる沐浴とは？	パフォーマンス課題:事例3生日のIちゃんの観察・清潔援助の実践(演習)
5回	新生児の健康を守り、安全で穏やかに過ごせる日常生活援助の意義とは？	実践の振り返りから、新生児の健康を守りニーズや欲求を満たす援助について考える(講義)

授業方法として、事前にパフォーマンス課題、新生児の事例を提示し、学生はルーブリック評価に示す学習のポイントから必要な学習をして臨む。新生児への日常生活の援助技術を習得するため、講義で知識を確認して演習につなげ、実践後のリフレクションを評価内容とした。演習では、実践を本人の携帯で動画撮影、学生間でルーブリック評価を使って講評させ、実践後のリフレクションに活かせるようにした。3回目の講義で学生のリフレクションを活用し、新生児の身体観察や清潔援助時の安全・安心についてグループで意見を出し合い、全体の学びへつなげ、4回目の実践に活かせるようにした。4回目の演習は、学生一人一人が新生児の身体観察から沐浴の実践を行い、同様にルーブリック評価を用いて講評し合う。5回目の講義では、これまでの実践を振り返り、新生児の健康を守り、ニーズや欲求を満たす援助について考える内容とした。

実施した結果、学生は、グループの講評を活かし、実践後のリフレクションで課題を見いだしていた。次回の演習では新生児の身体的特徴をふまえてより安全、安楽、保温を意識した援助を学生自身が考えて行動し、手技も向上していた。学生の意見では、「演習や授業での学びで実習のイメージがわいた」「事前学習、実践、リフレクションで理解が深まった」「グループで行うことで、良いところ、ダメな所が分かり、自分に足りないところが分かりやすい」「パフォーマンス課題や演習を行うことでイメージしやすく理解が深まった」「今まで苦手だった母性看護学が少しは得意になった気がします」など学生自身が新生児への援助技術習得を実感できていた。

教員の所感:一人の教員で学生一人一人の技術演習の習得につなげるには限界がある。しかし、帰納的学習を取り入れ、ルーブリック評価を用いて学生間の気づきを伝え合うことで、学生はリフレクションにつなげることができる。また、その後の実践に活かし、学生自身が技術習得を実感できる。授業では教員の発問によって、学生が主体的に考え、学生間の気づきを引き出す支援を行っていくことが大切であると考え。